

8月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
なし類		8,402	112	7,936	366	100	334	12	0.1	7月最終週から徐々に関東産露地幸水の出荷が始まり、8月初旬には各銘柄が出揃う。早かった前年よりさらに早めの地域もあるが、おおむね作柄は良好。前年は小玉傾向だった千葉産なども肥大良く、前年以上の出回りが期待される。今年は作柄が良かったため、総入荷量は前年を上回る見込み。ものの切り上がりも早く、販売環境も良いと予想される。
もも		4,704	112	6,213	523	99	414	465	9.9	前年同様に生育は前進気味で推移しており、山梨の早場産地では8月上旬で出荷が終了する見込み。今年は福島産も潤沢な出荷量が見込まれているが、例年より出回り量が少ないことで全国的に引き合いは堅調であり、高かった前年並みの価格が維持される見込み。
りんご (つがる)		1,522	106	1,083	319	100	325	534	35.1	長野産「夏明」が7月下旬から出荷開始となり、28年度新リンゴの販売が始まる。一部で凍霜害の発生などもあったようだが、生育期間中の好天もあって大きな影響はなさそう。着果量も十分に確保されており、8月中旬には「つがる」の出荷が始まって下旬にかけて数量もまとまってくる。冷蔵品も月上旬にかけては終了予定で、切り替えもスムーズだろう。
ぶどう類		3,316	114	3,461	937	103	776	853	25.7	山梨産露地ぶどうも生育前進傾向で7月中旬～下旬にかけて各品種出揃ってきた。生育期間中の好天もあって作柄は良く、大房で豊作基調と見込まれている。今年は前年より入荷量が多いが、ももが大幅に前進してきていることから盆前の売り込み商材としてぶどうの引き合いが強まると見込まれる。
メロン類		2,005	95	2,567	510	104	396	352	17.5	北海道・東北の生育遅れ傾向は、総じて不作と言った結果が予想される。メロンへの価値観として、地方の方が高いため、産地相場は7月よりも高まると予想される。アールスメロンも4月以降の価格展開は予想外の動きであったが、8月も北海道産のメロン類が少ないことから、関西市場が相場を引っ張り、価格高になると予想される。
すいか類		8,467	92	10,262	212	118	163	4,163	49.2	全国的に前進して7月上旬までできたが、その後の東北産が大幅におくれている。長野産のみ前年より多く、占有率高まっている。長野産の切り上がりは良好で、お客様から繰り返し買ってもらえるであろう。7月の梅雨明けの時点で相場を崩すことがなければ、8月の販売は好調であろう。健康と美容のためにすいかを食べるという思想が浸透して、引き続き販売好調と予想され、価格も前年より高い見込み。